浴風会

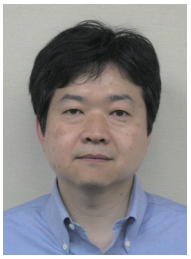
10 月号

平成 30 年 10 月 1 日発行
【発行者】〒 168-8510
東京都杉並区高井戸西 1-12-1
社会福祉法人　浴風会
京極　高宣
ＴＥＬ（代表）03-3334-2101
http://www.yokufuukai.or.jp/
【編集者】露口　長
【印刷所】株式会社サイド・ビー

第六天神の子供神輿が浴風会内を巡行しました。（9月8日）

人口減少社会での高齢者介護

厚生労働省老健局長　大島　一博



日本の高齢者介護は、2000年の介護保険の導入で大きく変わりました。介護サービスの利用が普通のこととなり、個人や家族が介護問題を抱え込むリスクが減りました。これは評価に値すると考えます。しかし今後日本では人口が急速に減少します。それが高齢者介護にどういう影響をもたらし、どう対応するのが最善なのか。今まさにそれを検討すべき時期にあります。

戦後のベビーブーム期に生まれた団塊の世代は、2035年に全員85歳に到達します。統計では、75～79歳の要介護認定率が14％であるのに対し、85～89歳では51％に上昇する（90～94歳では72％、95歳以上では86％）ので、2035年にはより多くの介護サービスを必要とします。一方、働き手である15～64歳の人口はすでに減少期に入っていますが、今後減少のスピードを速め、2015年に7700万人だったのが2040年には6000万人になります。こうした時代変化のもとでは、①「予防・健康づくり・地域づくり・生涯現役型」の介護、②「人手不足対応型」の介護がカギになると考えます。

まず①についてですが、高齢者が若返っていることにチャンスがあります。スポーツ庁の体力テストの結果をみると、2014年の70～74歳の体力点数は、男女とも、1998年の65～69歳を上回っています。同様に75～79歳と70～74歳について比較すると、男性はほぼ同じ点数、女性は75～79歳の方が上回っています。約15年の間に体力的に5歳若返っているといえます。なお、1997年以前は別方式なのでこの体力テストのデータは使えませんが、別の調査データでそれ以前も高齢者の若返りが見られたとの結果があります。予防・健康づくりの取組を進め、若返りを応援し、高齢者も「支える」側に回ってもらう。「支える」との中には、就労だけではなく、地域の中でボランティア的に活動することも含まれます。

いずれ到来する人生百年時代を見据え、リタイア後の30年・40年を地域の中で活躍しやすいように環境を整えることが自治体の重要な役割になります。地域づくり・生涯現役社会づくりと介護制度が密接に関連してきます。

②については、介護サービスの現場の負担感に即して検討を進めます。介護現場の業務分類を行って、介護専門職の専門性が欠かせない仕事とそれ以外の仕事に分け、後者は元気な高齢者が担う。また、現場の負担感の大きな要因となっている請求・記録業務や夜間のケア業務をＩＣＴによって効率化します。これらによって人材不足対応型の介護を実現し、同時に専門職の専門性を高め、処遇改善を図ることを検討していきたいと考えます。

悲しみを分かち合い優しさを与え合う地域貢献に

業務執行理事・地域サービス部長　遠藤　雅晴

浴風会の地域貢献

浴風会は、基本理念の第一番目に「地域との協働と社会貢献」を掲げています。その点から見れば、「地域貢献」こそ、社会福祉法人浴風会の存在理由（レーゾンデートル）と言っても過言ではありません。

浴風会の地域貢献の目標は、「地域と共に未来を拓く」ことです。これは法人創立90周年（２０１５）に際し、職員からの公募によって選ばれた標語です。この標語は、１００周年（２０２５）に向けて、浴風会が地域貢献を積極的に推進するという、法人の志（こころざし）と、職員全体の決意を、はっきり示しています。

地域貢献にとって大切なのは「心」です。

今年６月に浴風会の理事に就任された、神野直彦氏（日本社会事業大学学長）のお言葉を借りれば、浴風会の地域貢献の心は、地域で生きる人々に寄り添い、「悲しみを分かち合い優しさを与え合う」ことにあると私は考えています。【注】

地域公益活動推進本部の設置

昨年４月、社会福祉法が改正され、社会福祉法第24条第２項の規定に基づく「地域における公益的な取組」の実施は、社会福祉法人の責務になりました。

これを踏まえ、浴風会は、昨年７月、地域公益活動推進本部を設置しました。

ただ、浴風会は、昨年の法改正を待つまでもなく、従来から各事業部門において、それぞれが持てる経験や資源を活かして、地域に根差した様々な貢献活動を実施してきました。その面では、浴風会の地域貢献活動は、法が想定する地域公益活動よりも幅広く、より地域密着の度合いが強いものと言えます。

地域公益活動推進本部は、改めてこれらの地域貢献活動の調整や取りまとめを行うことになったのです。

地域貢献の現場から

平成29年度の事業報告書には、浴風会が行った多種多様な地域貢献活動の概要が掲載されています。（『平成29年度事業報告書』21頁～23頁）

とりわけ、地域貢献活動一覧表には、30種類を超える地域貢献活動の実績が列挙されており、浴風会と地域とのつながりの深さ、活動のすそ野の広さは一目瞭然です。その中から、平成29年度から新たに始まった地域貢献活動を二つご紹介します。

一つ目は、浴風会病院の医師や相談員などが、地域の都営団地に出かけていく「高井戸団地無料健康相談会」です。（写真１）

高井戸団地は、浴風会のすぐ近くにあり、杉並区内最大の都営団地（７５０世帯）で、高齢化率が30％を超え、孤独死やひきこもりなどの問題も発生している地域です。

（写真１）

無料健康相談会を通じて、団地内で潜在化した問題ケースの早期発見も可能となり、より具体的な支援につなげることが可能となりました。

二つ目は、浴風会の一角にある、認知症介護研究・研修東京センターを会場に始まった「わがまち一番体操」です。（写真２）

杉並区や区民ボランティア団体の要望を受け、東京センターが地域貢献の一環として体操教室の会場を提供しています。参加者は地域に住む高齢者30人ほど。ボランティアスタッフの一人は、浴風会内の施設に住む元気な高齢者です。高齢者同士が出来ることから支えあう。こんなところも、浴風会の地域貢献活動の特色と言えるでしょう。

（写真２）

地域貢献はまちづくり

杉並区は、まちづくりの総合目標を、「支えあい共につくる　安全で活力あるみどりの住宅都市」としています。これは、浴風会の標語、「地域と共に未来を拓く」と目指す方向は同じです。地域で生きる人々に寄り添い、「悲しみを分かち合い優しさを与え合う」関係性の中で、浴風会の地域貢献は、まちづくりの充実と発展につながっていくものと確信しています。

【注】神野直彦氏の近著『経済学は悲しみを分かち合うために』（岩波書店２０１８年６月発行）を参考にしました。

管理栄養士の業務について

栄養サービス調整室・南陽園
管理栄養士　山本　雪

管理栄養士といえば、カロリーを考えて食事を提供する人といったイメージが一番大きいかと思います。もちろん食事サービスに関する業務もありますが、それ以外にもご利用者の栄養管理、各種委員会・会議の出席、食数管理、栄養士養成校からの実習生の受け入れなど、いろいろな業務をさせて頂いています。

食事サービスについては、委託業者の栄養士と連携を図り、安全かつ少しでもご利用者に喜ばれる食事の提供を目指して取り組んでいます。毎日の昼食時のラウンドは、その食事がどのように召し上がられているか、直接ご利用者からご意見を伺える貴重な時間となっています。味の好みも様々なのであちらでは薄いといわれ、こちらではしょっぱいといわれることも度々です。それでも、行事食になるといつもより豪華な食事になり、食器も変わったりする為か多くの方からおいしかったと言って頂けます。食事というものは見た目や雰囲気もとても大事だなと実感させられます。

栄養管理は、栄養ケアマネジメントに基づき多職種協働で行っており、低栄養状態の予防・改善を通じてご利用者の自己実現に寄与することを目的としています。しかし、重度化傾向により口から召し上がることが困難な方が増え、対応が難しくなってきている現状があります。いかに誤嚥しないようその方に合った食事形態にするか、介助方法にするかがポイントになり日々の観察が欠かせません。必要な場合は訪問歯科医に頸部聴診や嚥下内視鏡を依頼しアドバイスを頂くようにしています。そのアドバイスを活かすべくケアワーカーや機能訓練指導員、看護師、相談員と連携し、ご利用者に安全に召し上がって頂き栄養状態を少しでも維持・改善できるよう努めています。

また、浴風会の中には会内の管理栄養士で構成している「栄養サービス調整室」が設置されています。定期的に委員会を開催し近況報告や情報交換を行い日々の業務に役立てるとともに、「彩食だより」という掲示物を持ち回りで作成し食品に関する知識などの広報活動を行っています。その他にも地域関連機関と連携し栄養に関する情報提供を行ったり、外部の方に向けた研修会の講師の依頼を受けたりしています。普段は管理栄養士同士なかなか会うことも話す機会もなく、所属する施設や病院の管理栄養士としてそれぞれ業務についています。栄養サービス調整室としていろいろな活動を行っていますが、この委員会があることでお互いの顔がわかり、何かあったときは協力し合える関係が作れるというところも結構大切だと感じています。

食事提供のあり方はその時々で変わっていきます。これからの重度化に向け、より安全においしく召し上がって頂けるような調理法が開発されるかもしれませんし、全く新しい考え方で食事や栄養というものを捉えるようになっているかもしれません。先のことは結局のところわかりませんが、今まで通りご利用者との関わりを大切にしながら新しい知識の習得と変化に対応する心構えは常に持ち続け、これからも業務に励んでいきたいと思っています。

浴風会の動き（9 月）

敬老会（第三南陽園）

【本部事務局】

20～21日　全国社会福祉法人経営者大会（長野市）。参加者　江波戸専務理事、小室浴風園園長、浅井総務部長。

26日　乙女地蔵法要。

27日　下高永福民生児童委員協議会8名見学。

28日　アクティブ福祉in東京'18。南陽園、第二南陽園、第三南陽園、松風園口演発表。なお、南陽園及び第三南陽園の発表が日本介護福祉士養成施設協会長賞受賞（詳細は次号以降に掲載）。

30日～10月1日　みんなの音楽会（浴風園コミュニティホール）。（浅井）

浴風会ケアスクール

Cafeオレンジリボンウッド

4日　アートボランティア養成講座、ワークショップ「造形」実施場所：南陽園。

6～27日　介護福祉士実務者研修8期生9期生スクーリング。受講生20名。講師：瀧浪美也子氏・大津陽子氏。

10日　cafeオレンジリボンウッド開店。来店者74名。

介護職員初任者研修12期生。受講生19名・講師：（職員）百瀬、橋村あゆみ氏。

11・13日　アートボランティア養成講座、ワークショップ「ダンス」実施場所：くぬぎ。

12日　よくふう語ろう会。参加者23名。

18日　特別区職員互助組合介護講座「知っておきたい認知症のこと～認知症と最新医学～」参加者87名。講師：（職員）古田医師。

19日　アートボランティア養成講座、ワークショップ「音」実施場所：第三南陽園。

21日　豊島区受託事業、豊島区ケアマネ対象4回連続スキルアップ研修　定員60名。講師：渡部律子氏、加藤充良氏、國安眞理氏、谷澤隆子氏（職員）服部。

28日　cafeオレンジリボンウッド開店。来店者47名。次回は10月20日（土）「浴風会つながるフェスタ」本館1階にて開店いたします。（鈴木）

【老人福祉事業】

浴風園（養護老人ホーム）

5日　ダーツ大会を開催しました。前回に引き続きNPO法人プロップKの皆様にご協力いただきました。様々な形の的をご用意いただき、それぞれが投げ込みしやすい的を選び楽しまれていました。うまく的に当たると周りの皆様からも歓声があがり、賑やかな会となりました。

17日　大ホールで敬老会を開催しました。式典では百寿、白寿、卒寿、米寿、喜寿を迎えられた方々の表彰を行いました。百寿を迎えられた方へは内閣総理大臣、東京都知事からの記念品・祝状を贈呈し長寿のお祝いを行いました。表彰、記念写真撮影後は三城ゆり子様による演歌歌謡ショーをお楽しみいただきました。（宮﨑）

松風園（軽費老人ホーム）

14日　昼食時に敬老の式典を開催しました。米寿・喜寿を迎え式典に参加された11名の方々の長寿を皆様とともにお祝いし、その後は職員もご一緒して昔話に花を咲かせながら祝い膳をいただきました。

8・22・29日　家族・保証人懇談会を開催しました。昨年同様、棟別を基本に3日間開催としたことで、68家族83名の方々にご参加いただきました。

一年間での園での様子のご報告のほか、レクリエーションや介護予防リハビリの体験、また希望されたご家族には昼食をご提供いたしました。終了後のアンケートでは、園での生活がよく分かり安心できたというご意見を多数いただきました。（宮中）

浴風会ケアハウス

14日　敬老会の第一部はまなびの森保育園の皆様の元気な歌声と、若手邦楽演奏家による熱気あふれるステージの時間となりました。

26日　今月の歩こう会は、水族館「アクアパーク品川」まで行きました。イルカショーや珍しい生き物と触れ合う貴重な機会となりました。（隈本）

【介護保険事業】

南陽園（特別養護老人ホーム）

8月26日　晴天の中「南陽園祭り」を行いました。1階ではお好み焼きや焼きそば、かき氷などの模擬店を行い、午後はギター演奏やハーモニカ演奏、高井戸こだま会による和太鼓演奏がありました。ご利用者、ご家族の皆様は模擬店や催し物を楽しまれていました。

8月28日、9月4日　「アートワークショップ」を行いました。アートコミュニケーターの指導のもと、自分の手をかたどった絵画作品を作りました。

17日　「敬老会」では、午前に各フロアで式典を行いました。南陽園の最高齢の方は、105歳です。午後は職員による二人羽織りや、よさこいソーラン等で楽しまれました。（丸山）

南陽園在宅サービスセンター（認知症対応型通所介護）

当センターでは、9月17日の敬老の日に、お客様のご長寿をお祝いし、ボランティアによるフラダンスの踊りを楽しんでいただきました。

9月末には、活動室で長らく使用していた椅子を新しいものに変えました。緑色を基調とした椅子で、背もたれ部が高く、座面のクッション性も十分です。お客様には、ご利用中快適に過ごしていただけるものと思います。

浴室には可動式の手すりを用意いたしました。これからもより快適にお過

ごしいただけるよう環境を改善していきます。どうぞよろしくお願い致します。（徳増）

★各事業のお問い合わせは随時行っておりますので、お気軽にご連絡下さい。（徳増・工藤）

◎電話03―3334―2743

第二南陽園（特別養護老人ホーム）

8日　第六天神の祭礼で、子供神輿のお出ましがありました。子供が元気いっぱいに神輿を担いでいる姿を見て「感動しちゃったわ」と涙を流されるご利用者もいらっしゃいました。

17日　午前は、2階家族懇談会を開催しました。午後からは敬老祝い会を行い、最高年齢の104歳の方を始め、100歳を超えられている方が10名いらっしゃいます。祝い会では、沖縄三線やさざんか連の阿波踊りもあり、子供踊りをご覧になられ、俳句を詠われる方やご一緒に踊られる方もいらっしゃいました。（山崎）

第二南陽園在宅サービスセンター（通所介護、介護予防通所介護）

11日に地震を想定して、避難訓練を行いました。

17日から一週間、敬老会を催しました。皆様への敬意とともに、代表として米寿・卒寿・95歳以上の節目のお客様27名に、センター長から記念品を贈呈させていただきました。（尾滝）

★見学申し込みやデイサービスへの質問やお問い合わせもお待ちしています。

◎03―3334―2140

第三南陽園（特別養護老人ホーム）

14日　敬老会。フロアごとに長寿を祝う節目の年齢の方をご紹介し、お祝膳と紅白饅頭を召し上がって頂きながら敬老の日をお祝いしました。

17日　敬老・秋祭り。100歳以上の長寿の方15名にご参加いただき、お祝い会を開催しました。中庭では、焼きそば・たこ焼き・かき氷などを堪能し、射的やヨーヨー釣りなどの遊びで昔を懐かしみ楽しまれていました。「美味しいよ！」「楽しいね！」との声や笑顔が多くみられました。また、毎年恒例の迫力ある和太鼓や阿波踊り、フラダンスのボランティアの方々にも来て頂き、ご利用者の方々が一緒に踊ったり、手拍子をとっている様子も見られました。とても賑やかな秋の1日となりました。（谷口）

グループホームひまわり

8日　家族会・敬老会。皆様のご長寿をお祝いしました。和太鼓のお祝いの演奏には大盛り上がりで、入居者の皆様やご家族様も一緒に太鼓を叩いて楽しみました。これからもお元気で健やかに末永く過ごして頂きたいです。

17日　秋祭り。第三南陽園と合同で開催しました。焼きそばや焼き鳥、綿あめ、くじや射的などの屋台に太鼓や阿波踊りとイベントが盛りだくさんな一日でした。入居の皆様からは童心に帰ったような明るい笑顔が沢山見られました。（村下）

【地域サービス事業】

地域包括支援センターケア24高井戸

最近、日本のあちこちで自然災害が起こっています。防災対策は自分で行っているでしょうか？防災でも「自助」（自分の生命は自ら守る）「共助」（自分たちのまちは自分たちで守る）「公助」（行政機関、防災関係機関が連携して地域を守る）となっており、災害に対応する力を高め、連携することが大切とされています。

町会のない地域もあります。なかなか情報が入ってこないという声も聞かれます。災害が起こったらどうまちを守るか、それは自分をどう守るかにもつながっています。

やはり、日頃の繋がりが災害時には発揮されるのではないでしょうか。防災に強いまちは、誰もが住みやすいまちかもしれません。地域のみなさまと一緒に考え、まちづくり・地域づくりをしていきたいと思います。（尾関）

杉並区地域包括支援センター
ケア24高井戸
◎電話03―3334―2495

【病院事業】

浴風会病院

インフルエンザ予防接種について、本年度はインフルエンザワクチンの入荷量、入荷時期ともに未定となっております。確定次第、浴風会病院ホームページ等でお知らせいたします。ご迷惑をおかけし申し訳ございません。

お電話でのお問い合わせは、月曜～金曜（祝日を除く）午前9時から午後5時までです。

◎03―3332―6511（代表）（中澤）

老健くぬぎ（介護老人保健施設）

5日　本年度第3回目となる家族介護教室を開催しました。今回は「家庭で安心して出来る介助方法」というテーマで当施設リハビリ職員が講師を担当しました。ご家族様を中心に12名の参加をいただき、質問も多く見られました。

14日　2階入所者を対象に敬老会を実施しました。喜寿や卒寿の節目を迎えられた方を中心にお祝いいたしました。

13～15日　3階デイケアにて敬老会を実施しました。大道芸のボランティアによる南京玉すだれも好評で、商品が当たる宝くじも盛り上がりました。（森屋）

★入所・デイケア・ショートステイご利用のご相談はお気軽にご連絡ください。

◎03―5336―7701（代表）
◎03―5336―7734（入所）
◎03―5336―7704（デイケア）

【研究・研修他】

認知症介護研究・研修東京センター

6～7日　第7回認知症地域支援推進員研修（金沢市・93名修了）

10日　平成29年度東京センター研究成果報告会（250名参加）

19～20日　第8回認知症地域支援推進員研修（港区内・267名修了）

27日　第2回倫理委員会・利益相反委員会開催（村上）

浴風会病院　診療案内　⑯

浴風会病院における在宅診療の現状および今後

診療部長兼在宅医療支援室長　雨宮　志門

現在当院では病院近隣にお住まいの患者さん、法人内居住系施設にお住まいの患者さんへの訪問診療を行っています。また、院内スタッフによる訪問看護や訪問リハビリも積極的に行っており、平成 29 年度実績でそれぞれ年間 264 件、827 件、1140 件となっています。

件数は未だ少ないですが、患者さんや家族の希望に応じ在宅での看取りも行っています。地域ケア会議や当院認知症疾患医療センターが主催する研修会などを通じて地域の医療・介護機関との関係づくり・連携を行いながら、患者さんが望む自宅での生活が維持できるよう医療だけでない支援も行っています。

≪訪問診療の特徴は≫

当院の訪問診療の特徴は、院内の医師・看護師・理学療法士など多職種で同一の患者さんの診療やケアに当たれることです。

別々の組織から訪問医療やケアを行う場合、情報共有がスムーズにできず、結果として適切な医療やケアに結びつかないことが問題となりがちです。

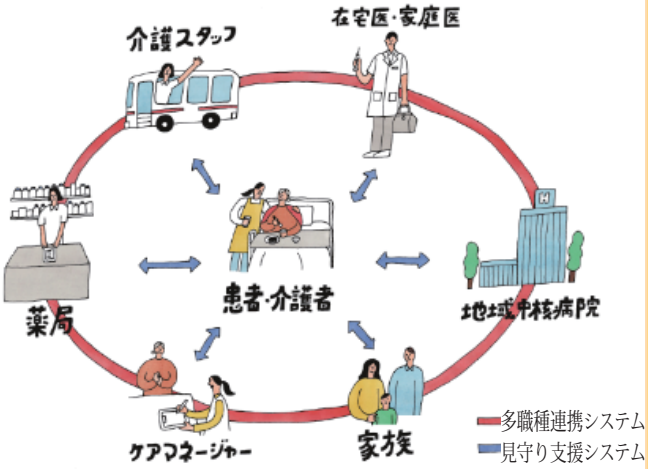
当院では連携する院外薬局の訪問薬剤師も参加したチームで診療及びケアを行い、スムーズな情報の共有を介し、適切な医療やケアを行いやすい体制になっています。

一方、必要に応じて当院の外来にて血液検査や画像検査ができる点、どうしても在宅での治療が困難になった時は当院に入院し治療ができる点も当院の訪問診療の特徴としてあげられますが、本来在宅医療が目指すべき目的である「病気を家庭で治す」ことに反することがないよう注意自制しながら診療するようにしています。

≪後方支援病院としての機能≫

また、当院は地域の医療機関として、在宅医療後方支援病院としての機能を有しています。この機能が果たせるべく、地域の訪問診療を行っている医療機関との関係作り、訪問医療の制度や特徴などを当院のスタッフに知ってもらうための広報活動も役割として担っています。

今後は、上記の働きをさらに強化するとともに、「最期まで自宅で過ごしたい」「最期まで自分の思い通りの生活がしたい」という患者さんや支える家族の希望をかなえるために、在宅看取りへの対応を強化していく必要があると考えています。



お問合せ　浴風会病院　０３-３３３２-６５１１（代表）

ご芳志

平成30年8月16日から
平成30年9月15日

多くの方々よりご芳情をいただきました。
ありがとうございました。

〈金品・物品〉
林　泰様、宮沢　郁子様、
小林　圭一様
●ほか、各施設にもいただいております。

【ご意見をお寄せください】
〒168-8510※住所なしで届きます
機関紙「浴風会」編集部係
soumu2@yokufuukai.or.jp
http://www.yokufuukai.or.jp/

浴風会つながるフェスタ
10/20(土) 10時～16時
子どもから大人まで楽しめるイベントです！
●お申込の必要なイベント●
申込受付中!
✦10:20～11:10 認知症セミナー　古田医師
✦11:30～12:20 排泄ケアセミナー
✦13:10～13:40 脳卒中講演会　伊藤病院長
✦14:00～15:30 アロマセミナー
✦12:00～12:50 大人気！！ 浴風会歴史建造物ツアー
その他 ✦福祉作業所の販売 ✦企業展示 ✦ゆるキャラショー ✦健康測定 など
★フリーマーケット出店者も募集中★

シンポジウム開催のご案内
「死ぬ」ことから考える
尊厳のある医療・ケア
～著名な実践者のリレートーク～
11/30(金)12:00～16：00
会場：有楽町朝日ホール
700名様無料ご招待
申込受付中!
●基調講演
「尊厳ある終末期の迎え方」
石飛幸三氏（芦花ホーム医師）
●シンポジウム「笑顔の終末期」
お申込は浴風会ケアスクール
fax03-3334-2694 又はHPより
①お名前②住所③FAX④お申込理由 を明記